

# 庄内川・土岐川自然学習シンポジウム ～ 総合学習への展開に向けて～



セントラルコンサルタント 常任顧問 石川 高史\*

川や水辺を利用した学習の推進へ向けての取組み紹介第3弾。去る3月3日(土)、名古屋市内において「庄内川・土岐川自然学習シンポジウム」が開催された。

国土交通省庄内川工事事務所では、上記の学習の展開を目指して、流域の小学校と連携して学習実践への支援などの活動を続けてきた。今回のシンポジウムはその活動の一環。平成14年度から始まる総合学習への展開に期待するものである。

## 会場、参加者等

会場は愛知厚生年金会館、参加者は開催案内により応募のあった教育関係者及び一般の方々約100名、時間は14:30～16:30の2時間。

## プログラム内容

主催者である庄内川工事事務所長の挨拶に続いて、2名の講師による基調講演があり、その後に川の学習を実践した3小学校の先生方及び教育の専門家、川の専門家等7名によるマルチトークが行なわれた。

### 基調講演1 「川の総合学習を通じた地域の発見」

寺本潔(愛知教育大学助教授)

こどもの頃から川に親しむことが大事。川遊び体験などを通じて自然とのつきあい方を学ぶ。洪水も含めた川文化、近代遺産・産業遺産等の地域文化の再発見など、社会では、理科では、国語ではと発展させていく。それが総合的な学習として成り立っていき、子ども達の力になる。

### 基調講演2 「新世紀・川の時代・人づくり」

國村恵子(名古屋市水辺研究会代表)

\*紹介は紙面の都合で割愛。

## マルチトーク

はじめに、庄内川・土岐川流域の上・中・下流に位置する多治見市立昭和小学、名古屋市立志段味西小、同長須賀小学の教務主任から、川や水辺を利用した学習の実践紹介が行われた。3校それぞれに特色がある。

その後に専門家を交えたマルチトークに入った。専門家としては、基調講演者及び川の専門家として原田守博名城大学助教授が参加した。

\*紹介は紙面の都合で割愛。

## パネル展示等及びCD-ROMのデモ

会場では、庄内川・土岐川を紹介するパネルや資料など

の展示、川の学習(教師向け)用に作成した学習ガイドブック及び資料集(CD-ROM)のパソコンによるデモが行われた。CD-ROMは、主に小学校の教師の方々に利用してもらうことを念頭に、庄内川・土岐川に関する様々な情報を編集したものである。川や水辺を利用した学習を進めるためには、算数や国語のように教科書がある訳ではないので、指導する教師の側に対して、学習取組みのきっかけとなるものが必要である。庄内川工事事務所では、前記の寺本・原田助教授及び学習実践校のメンバーからなる懇談会で議論を進め、「庄内川・土岐川学習ガイドブック」、「庄内川・土岐川学習資料集」を作成した。前者は、学習プログラムや教材、子ども達の学習記録などの事例及びおすすめプログラムなど教師へのヒント集となるもの。後者は、学習の参考となる庄内川・土岐川の資料集である。資料集をCD-ROM化し、ガイドブックと一つにまとめたのが会場でデモされたもの。

## アンケート

シンポジウム参加者へ、川や水辺を利用した学習の推進についてアンケートが行われた。



写真-1  
マルチトークセッション

写真-2  
熱心に聴講する先生方や  
NPOなどの皆さん



## 感想

シンポジウムは、講師の都合もあって、1月中・下旬の予定を3月開催とせざるを得ず、多数の教育関係者の参加を得るには、時期的に最も厳しいときになってしまった。そんな時期にもかかわらず、相当数の教育関係者の参加が得られたし、内容的にも十分初期の目的は達成したと思う。参加者のアンケートに対する回答では、川の学習の推進をすべきとの意見が多く、心強く感じた。子どもたちへの期待の大きさはその裏返しとして、我々大人たちが川とどう関わっていくか、責任もまた大きいと言えよう。

今回のシンポジウムがきっかけとなり、庄内川・土岐川に限らず、今後の川の学習の展開が進むことを心から期待する。